

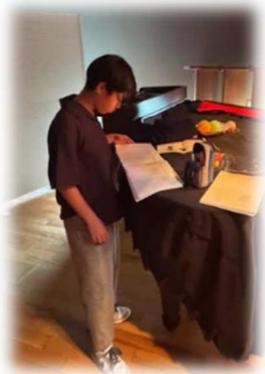
学年
通信

魂知輪

令和6年10月31日
第28号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

本番はすぐそこ! トップギアに!

おじろドームでの練習が始まりました。始まったと思ったら、もうリハーサルを迎えました。心配な部分も正直ありますが、私の計算が合っていれば、『本番に強い』みなさんなら、きっといい演劇に仕上げられるはずです。



劇の一部です。全貌は、
当日のお楽しみ!



五十音 北原白秋

水馬赤いな。ア、イ、ウ、エ、オ。浮藻に小蝦もおよいでる。
柿の木、栗の木。カ、キ、ク、ケ、コ。啄木鳥こつこつ、枯れけやき。
大角豆に醋をかけ、サ、シ、ス、セ、ソ。その魚浅瀬で刺しました。
立ちましよ、喇叭で、タ、チ、ツ、テ、ト。トテトタッタと飛び立った。
蛞蝓のろのろ、ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ。納戸にぬめって、なにねばる。
鳩ぼっぼ、ほろほろ。ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ。日向のお部屋にや笛を吹く。
蝸牛、螺旋巻、マ、ミ、ム、メ、モ。梅の実落ちても見もしまい。
焼栗、ゆで栗。ヤ、イ、ユ、エ、ヨ。山田に灯のつく宵の家。
雷鳥は寒かろ、ラ、リ、ル、レ、ロ。蓮花が咲いたら、瑠璃の鳥。
わい、わい、わっしょい。ワ、イ、ウ、エ、ヲ。植木屋、井戸換え、お祭りだ。

演劇やオペラの前には、毎日これを10回唱えて発声練習をしていたことを、昨日のことにように思い出します。

あとは、劇団四季がやっている『母音唱』。冬でもスポットライトを浴びて半袖で演技練習をしていた、学生時代の自分を思い出して懐かしんでいました。